

2024(令和 6)年度

学校関係者評価報告書

学校法人 大阪明星学園
明星高等学校 ・ 中学校

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析	学校協議会からの意見																																										
<p>本校では教職員自己アンケート・保護者アンケート・生徒評価アンケートの3種類を実施し、教職員と保護者と生徒全員にWEB回答を実施しました。その中でも特徴的な項目について以下にまとめます。なお各学年および全体の回収率は</p> <table border="1" data-bbox="111 392 1021 683"> <tr> <td>中学1年生</td> <td>生徒</td> <td>80.3%</td> <td>保護者</td> <td>98.6%</td> <td></td> </tr> <tr> <td>中学2年生</td> <td>生徒</td> <td>65.7%</td> <td>保護者</td> <td>93.1%</td> <td></td> </tr> <tr> <td>中学3年生</td> <td>生徒</td> <td>51.8%</td> <td>保護者</td> <td>82.1%</td> <td></td> </tr> <tr> <td>高校1年生</td> <td>生徒</td> <td>76.2%</td> <td>保護者</td> <td>82.7%</td> <td></td> </tr> <tr> <td>高校2年生</td> <td>生徒</td> <td>56.7%</td> <td>保護者</td> <td>82.3%</td> <td></td> </tr> <tr> <td>高校3年生</td> <td>生徒</td> <td>66.8%</td> <td>保護者</td> <td>85.0%</td> <td></td> </tr> <tr> <td>全体</td> <td>生徒</td> <td>66.2%</td> <td>保護者</td> <td>86.9%</td> <td>教職員 92.2%</td> </tr> </table> <p>でした。</p> <p>(1)教育理念について</p> <p>(設問1)の「建学の精神」(設問2)の「宗教的な取り組みを通して、神の愛、命の大切さに向き合う機会を提供しているか」という問いについての保護者の回答は、(設問1)において昨年に比べ0.1ポイント上がり、(設問2)においては、同等で、概ね高い評価を得ました。「建学の精神」「宗教教育」についての生徒の評価は、昨年度と同等の値でした。</p> <p>今後はさらに、全校朝礼や、始業式、終業式、学年朝礼・昼礼や日々のHR活動、宗教の授業、小鳩会活動などとおして、色々な立場の先生方から、意識して建学の精神に触れていく機会を多く持っていただけるようにしたいと考えています。「建学の精神」や「宗教教育」という理念的なものはなかなか浸透しづらいものかもしれませんが、これからも前述の通り、粘り強く伝え続けていきたいと考えます。</p> <p>(2)学習指導について</p> <p>(設問4)の「授業時間数の確保」については、保護者の評価は横ばい、生徒の評価も横ばいでした。保護者、生徒とも高い評価を得ています。教員の評価が昨年度0.4上昇しましたが、今年度は0.5減少しました。保護者、生徒、教員では、教員の値が一番高い評価になっています。</p> <p>(設問5)の「知的好奇心への刺激」は全体の中でも低い評価でした。例年この傾向があります。教員の評価は、保護者・生徒の評価よりも高いことから、教員は「知的好奇心への刺激」を意識して授業をしているものと思われそうですが、それが生徒・保護者には上手く伝わっていない状況であると考えられます。しかし、過去3年間で生徒の評価の数値は回復してきています。また、保護者の評価は昨年度より、少し上昇しています。今後もタブレット、パソコン、プロジェクターやICT教室・多目的ホール・図書館のラーニングコモンズ等を活用し、各教員が個々の授業において一層の工夫をしながら、授業・教科・学年・学校の枠にとらわれず様々な課題の発見や解決に取り組むような活動を促すことにより生徒の知的好奇心を刺激し、評価が改善されるよう取り組みたいと思います。</p> <p>(設問8)の「公正評価」は、教員の評価は昨年度より下がりましたが、保護者、生徒の評価は上昇しています。概ね高い評価を得ています。高校の新指導要領の実施に伴い、評価方法が観点別評価となり、3年が経過しました。高校のすべての学年が観点別評価になりました。この設問で教員の評価が他の全項目の評価の中で一番高かったことからわかるように、評価の公平性を意識し、観点別評価のしかたもほぼ確立できているものだと考えられます。</p> <p>(設問15)の「進路指導」は保護者の評価は上昇、生徒の評価は横ばいでした。卒業生の合格座談会や生徒・保護者対象の大学進学ガイダンスや大学説明会、医学部進学ガイダンスなど前年度に引き続き熱心に生徒、保護者に働きかけができるよう取り組みました。(設問16)の「希望進路対応」の生徒、保護者の評価が今年度は上昇しました。これは、大学の合格実績が前年度とほぼ変わらず、医学部医学科の合格者が伸びているところからこの評価につながっているのではないかと考えられます。</p>	中学1年生	生徒	80.3%	保護者	98.6%		中学2年生	生徒	65.7%	保護者	93.1%		中学3年生	生徒	51.8%	保護者	82.1%		高校1年生	生徒	76.2%	保護者	82.7%		高校2年生	生徒	56.7%	保護者	82.3%		高校3年生	生徒	66.8%	保護者	85.0%		全体	生徒	66.2%	保護者	86.9%	教職員 92.2%	<p>(学校関係者評価委員会) 令和7年9月20日(土) 本校法人会議室にて委員5名 本校教職員5名にて開催</p> <p>(1) 教育理念について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・建学の精神に関し、他者に尽くす「地の塩世の光」の教えは生徒・保護者ともに浸透している。 ・「明星紳士」というキーワードは、生徒にとってプライドを醸成する役割を果たしている。 ・宗教的な取組については、信徒と非信徒の間に差が生じる面はやむを得ないが、それに準じた活動である小鳩会(ボランティア)については、参加していない生徒がやや距離を置いている印象があるのは残念である。 <p>(2)学習指導について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・知的好奇心が刺激されているかどうかの項目に関して、保護者・生徒と教員との間に依然として乖離が見られる。 ・中学新生入生に実施したアンケートによると、明星への進学動機は「もっと勉強をしたい」が3%(全国平均10%)に対し、「課外活動」が46%(全国平均35%)となっている。受験勉強の負担が影響している面もあるが、座学中心のカリキュラムでは動機付けが弱いと考えられる。そのため現在、新しい学習スタイルや課外活動、PBLの導入等により、探究型学習から進学実績につなげる取組を進めている。 ・探究活動は重要であるが、男子校であることを踏まえ、理系型の探究をさらに取り入れる必要があるのではないかと。 ・明星の強みは、多方面で活躍する卒業生の存在であり、この強みを積極的に活かすべきである。
中学1年生	生徒	80.3%	保護者	98.6%																																							
中学2年生	生徒	65.7%	保護者	93.1%																																							
中学3年生	生徒	51.8%	保護者	82.1%																																							
高校1年生	生徒	76.2%	保護者	82.7%																																							
高校2年生	生徒	56.7%	保護者	82.3%																																							
高校3年生	生徒	66.8%	保護者	85.0%																																							
全体	生徒	66.2%	保護者	86.9%	教職員 92.2%																																						

(3)生活指導について

(設問 11)の結果から、本校の生活指導の方針については、保護者・生徒とも今年度は前年度に比べ、上昇しています。例年の傾向で、実際に学校生活を送っている生徒には保護者のような高い評価は得られないのが現実です。しかし、過去3年間での比較では徐々に数値は回復してきています。(設問 12)の「規範意識指導」については、保護者は減少していますが、生徒は上昇しています。また(設問 13)の「生活リズム指導」については保護者・生徒の両方で評価が上昇しています。社会規範を身に付けることや規則正しい生活を送ることの大切さは理解しているが、本校の生活指導の方針について理解・納得ができない生徒がいるのも現実です。生活指導について学校の考え方を一方的に押しつけるのではなく生徒会とも協力しながら生活指導の方針について生徒がしっかり理解できるよう粘り強く取り組むことが大切であると考えます。

(4)施設設備関係

(設問 25)の「清掃・清潔」、(設問 26)の「施設面の充実」について、保護者は前年度と変わらず、満足度が高くなっています。生徒・教員も評価が上昇しています。多くの生徒が満足しています。特に、保護者の「清掃・清潔」の肯定的評価は全項目の1位(「建学の精神」と同評価)になっています。明星では、トイレ・廊下等共有部分の清掃は、業者に委託していますので、委託業者のおかげで高評価となっています。生徒には、自分たちが生活する環境を清潔に保ってもらっていることに感謝し、できるだけ汚さない・ゴミを出さないように、また、ゴミの分別を徹底するなどさらに努力をしていただきたいと考えます。生徒会からの働きかけをさらに強めていき一層努力していきたいと考えます。

(5)学校行事・クラブ関係・保護者会など

(設問 19)の「クラブ活動」は昨年に比べ生徒の値が上昇し、保護者・教員は横ばいでした。(設問 20)の「学校行事の充実」は保護者・生徒・教員の評価はすべて上昇しました。「クラブ活動」に関しての生徒の満足度が少し上昇しています。「クラブ活動」は他のすべての質問事項の中で一番高い数字になっています。今年度の「学園祭は今年度土曜日開催でしたが、かなり多くの来場者で賑わい充実したものになりました。保護者の方々も準備段階から、かなり積極的に参加していただきました。この場をお借りして御礼申し上げます。

(設問 24)の「保護者会」は、生徒のプレゼンテーションや報告など積極的に情報を発信しました。保護者の評価は少し下がりましたが、高い評価を得ています。今後も、より保護者の求めている情報を発信できるようにしていきたいと思えます。

(6)連絡体制・ホームページ

(設問 22)の「家庭伝達」は出来るだけ紙媒体の伝達方法は少なくし、classiの連絡機能やアンケート機能を学年主任や組担任が積極的に使用して、保護者へ情報を発信しており、今年度は保護者・生徒・教員で非常に高い評価になっております。(設問 28)の「緊急情報体制」は全体的には高い評価を得ています。昨年と比べて今年度は保護者・教員で評価の数値は少し上昇しています。(設問 23)の「ホームページ」は昨年と比べると保護者・生徒・教員のすべてで評価が上昇しています。ホームページは、今年度リニューアルいたしました。入試広報でもたいへん重要なツールでございますので、情報運営委員会を中心に創意工夫し、さらに充実したものになるようにしていきたいと考えています。X・Twitterなどの配信も多く行いました。

(7)保護者・生徒・教員3者間の比較

すべての項目においてマイナスの値をとっているものはありませんでした。学校運営に関しては大きな課題や喫緊に改善を要するものは概ねないように思われます。よりよい学校運営に向けた課題をあげるとすれば、「知的好奇心」があげられます。保護者・生徒・教員の認識差において、教員の評価が高い一方で、保護者や生徒の評価が低くなっています。この場合、教員から見えていない課題(例えば、教員が効果を感じている教材が生徒の関心を惹いていないなど)が存在している可能性があります。授業評価アンケートや面談を通して生徒へのヒアリングなどを行い、その要因を確認していくことが必要であると考えます。逆に「施設設備」においては保護者・生徒・教員の認識差において、教員の評価は今年度少し改善したものの、教員の評価は低い一方で、保護者・生徒の評価が高くなっています。保護者・生徒からは設備が整っている、綺麗であると

(3)生活指導について

・生徒の評価は高く、保護者・教員の評価は低い。生徒は一定のルールのある環境に安心感を持つ一方、大人の視点からは「より厳格にすべき」との見方が強いと推察される。

・保護者の意見は三者三様であり、世代や社会状況を反映しているため一概に正解はない。ただし、女子校に見られるような校則へのアレルギー的反発は明星では顕著ではない。

(4)施設設備関係

・清掃は行き届いており、綺麗に保たれている。

・生徒会主導のゴミ分別、リサイクル活動等も実施された。

(5)学校行事・クラブ関係・保護者会など

・学園祭は、生徒会が中心となり主体的に企画・運営し、多くの学びを得ている。

・部活動も他校に比べて積極的に取り組まれている。

・空調設備については、より緻密な制御が求められる。

(6)連絡体制・ホームページ

・ホームページはリニューアルの効果により、前年より評価が向上している。

・入学希望者向けコンテンツのさらなる充実が望まれる。

・緊急情報の伝達は最重要事項であり、万全な体制を整える必要がある。

(7)保護者・生徒・教員3者間の比較

・生徒・保護者と教員との間で評価が異なる項目が見られた。ニーズを尊重すると同時に、教育方針を信念をもって示し、丁寧な説明により相互理解を深めることが重要である。

評価されていますが、とくに長年いる教員からは設備の老朽化が気になり低い評価になっているものと考えられます。

(8)その他

(設問 10)の「支援体制」で、「わからない」と回答した保護者は 40.3%と昨年度より上昇しており学校からの案内、配信をもっと多くしていく必要がございます。「カウンセリングだより」は毎月、生徒・保護者へ配信しております。継続して保護者会での広報活動や classi などを用いた情報の伝達に努めて参りたいと思います。また、満足度ポイントの平均は、保護者・生徒において少し上昇しております。支援教育に対する期待もその分高まっているものと思われま。今年度から合理的配慮が私学の学校を含め民間企業で義務化されました。本校も SR 生徒が一定数在籍しておりますので、さらに配慮できるところは配慮してできるように、そのニーズにできる限り応えられるようにしていきたいと考えております。

(8)その他

- ・教員間で意識や情報量に差が見られる。担任の裁量に委ねるのではなく、学校として統一的な指導・説明を行う必要がある。
- ・特に近年は、外部活動が総合型選抜の評価に直結する時代であるため、学校全体として戦略的に取り組むことが求められる。